

地域包括ケアネットワーク No.13

地域包括ケアシステム構築における御津医師会の取り組み

御津医師会理事 難波 経豊

御津医師会は岡山市北部（岡山市津高一宮地区、旧御津郡御津町・建部町）と吉備中央町（旧御津郡加茂川町）のエリアの医師の集まりであり、岡山市と吉備中央町の二つの行政が関わっています。平成27年4月には岡山市西部の高松足守地区の全会員34名も合流され、地域はさらに広がりました。

このように岡山市北西部から吉備中央町にわたる広い地域を含みますので、エリア内の地区によって事情が違います。津高一宮地区は医療機関や介護施設に比較的恵まれています。今後の急速な高齢化に対応するため、様々な組み合わせのチーム作り、そして意思疎通の手段確立などが大きな課題です。旧御津町・建部町地区および吉備中央町では高齢化率がすでに40%前後と高く、医療や介護のサービスが不足気味です。限界集落も点在しており「足（交通）の問題」も深刻ですが、顔の見える関係作りは比較的容易です。

地域包括ケアシステムは、病気や障害をかかえていても住み慣れた地域で生活を続けられる支援体制として、平成20年に国の政策として掲げられました。このシステムは在宅で生活するための全般的な支援システムですので、医療、介護、住民組織、行政など様々な分野の関与そして連携が不可欠となります。医療の分野としては、普段はかかりつけ医による在宅医療、急変時には必要に応じて病院での急性期医療、すなわち機能分化と病診連携が重要となり、在宅医療は厚生労働省の医療計画として明確に位置づけられました。

御津医師会では国が政策として掲げた当初から「見放さないその命、地域医療を守る御津医師会」というキャッチフレーズを掲げ、地域医療そして在宅医療に活動の方向性を定め、継続・発展させてまいりました。

まず、夜間診療輪番制度を立ち上げ、これを契機に地域の町内会長の方々と協定を結び、地域の方々から意見を直接伺う機会を作っています。また、医療や福祉の関係者および住民が集う地域医療学術シンポジウムを毎年開催しています。第6回を迎えた本年度は「ときどき入院、ほぼ在宅－地域で支える－」をテーマとして開催しました。

平成24年に岡山県は、市町村や地区医師会等を連携拠点とした地域包括ケアにおける医療ニーズに対応する体制構築を目的として在宅医療連携拠点事業を開始しました。御津医師会はこのモデル事業を委託され、在宅医療の普及（人材育成、効率化、質の維持、住民への啓発）や多職種連携の構築などに取り組んでいます。また、エリア内の各地区の特性に合わせて活動を進めるため、旧御津町エリアの「御津ネット」および津高一宮地区の「津高一宮ネット」を組織し、各々で医療福祉関係者による月1回のコア会議と、住民も含めた3カ月毎の全体会議を開催し、問題の抽出と対策、活動の報告と検討、意思の統一を図っています。さらに「御津ネット」では、施設訪

問による嚥下口腔ケア、認知症についての地域住民への情報提供、ICTを利用した多職種連携、介護職対象の終末期勉強会の開催、死生観に関する講演会の開催などを行っており、「津高一宮ネット」では、多職種参加型勉強会、急性期病院との病診連携会議、症例事例検討会などを行っています。吉備中央町では円城小学校区で平成25年より住民主体の組織「円城安心ネット」が立ち上がっており、地域包括ケアの体制づくりを進めています。

平成25年からは「在宅医療を進める会」を半年毎に開催し、在宅医療に関わる会員の方々が集まり、他科の先生を含めた情報交換をしています。

地域包括ケアシステムの運用において地区医師会の役割はますます重要になります。御津医師会は、地域の住民や様々な職種の方々と連携しながら、このシステムを支える柱として貢献していきます。



児島医師会：村山正則